

新南陽の景況感

調査概要

調査対象期間 2020年1月～3月（現状）における景況感、4月～6月（今後）における景況見通し

調査対象 新南陽地域の企業122社

調査方法 商工会議所経営指導員等職員の巡回相談時に調査票回収

調査項目 「業況」、「売上高」、「採算」、「仕入単価」、「従業員」、「設備」、「資金繰り」

※新南陽地域での景況動向調査は今回が初めてであるため前回は無い

産業全体

全ての業種で現状・今後共に、業況D1、売上高D1、採算D1、資金繰りD1はマイナス（悪化）の集計結果となった。

周南市は全国でも有数の石油化学コンビナートを形成し、新南陽地域にも知名度の高い工場企業が立地していることから企業城下町として発展してきた。よって、当地域の事業者は、関連会社の工場や下請け会社などが多くを占めている。他の地域に比べて、良くも悪くも、大手石油化学コンビナートの業況に影響を受ける所がある。

2019年12月中国武漢で発生した新型コロナウイルスは2020年1月には日本で感染者が発生。この度の調査期間に当たる1月～3月で、山口県内の感染者は3月末に数人発生し、その後増加していくことになったが、すでに1月～3月の事業者の業況は低迷しており、売上高D1、採算D1等はマイナス（悪化）の集計結果となった。その中でも、業界によってマイナスの程度に差があるため、その結果をもとにして業界別の特徴を分析した。季節は新年から年

度末の期間に当たり、送別会や引越しが多い時期ではあるが、全体的に新型コロナウイルスの影響で経済の活性が低迷している。労働調査では、山口県の完全失業率は2020年3月時点で24%。前年同月比の変化なし。しかし有効求人倍率は1.35倍で、2019年3月61倍と比べて悪化しているが、今回の調査では製造業以外は、従業員D1は「不足」と結果が出ている。

山口県の、緊急事態宣言は4月16日～5月25日の期間であった。今回の調査では、今後の見通しの期間に当たり、業況はさらに悪化する懸念がある。

【卸・小売業】
現状、今後共に従業員D1、設備D1を除く項目においてマイナス（悪化）の結果となる。新型コロナウイルスの影響で、飲食店への売上が低迷、1月～3月の展示会等が中止になり、今後の見込みも立たない中で、夏季シーズンのイベントの計画を検討中の声もある。

一方で、スーパーなど食品販売は影響が少なかったと報告あり。

【製造業】
当業界のみ、従業員D1が人材過剰となっており、今後の見通し

【飲食・宿泊業】
ほとんどの事業者が売上高D1、採算D1、業況D1、資金繰りD1を「良い」と回答された事業者はいない。今後の3カ月も改善が見えない状況。飲食業は、団体客が歓迎会・法要等を控えたり、夜の顧客が大きく減少されたと報告があり、宿泊業は、他県の顧客が来なくなる影響があると報告があった。

コロナ禍の影響を大きく受けた業種といえる。

DI（景気判断指数）値とは？

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率をしめすものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・資金繰り：(好転) - (悪化) 売上・採算：(増加) - (減少) 従業員・設備：(不足) - (過剰)

	全体		卸・小売業		製造業		サービス業		飲食・宿泊業		建設業		運輸業		保険業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
業況	-93.3	-94.7	-88.9	-100.0	-100.0	-100.0	-81.8	-85.7	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-60.0
売上高	-58.1	-88.5	-68.0	-100.0	-16.7	-83.3	-73.3	-100.0	-100.0	-100.0	-20.0	-100.0	-33.3	-40.0	-100.0	-60.0
採算	-73.0	-97.5	-82.6	-100.0	-60.0	-100.0	-83.3	-100.0	-100.0	-100.0	-33.3	-100.0	-42.9	-75.0	-100.0	-100.0
仕入単価	-48.4	-41.2	-40.0	-40.0	-33.3	-14.3	-60.0	-25.0	-100.0	-33.3	-100.0	-100.0	0.0	-100.0	0.0	0.0
従業員	72.7	43.8	100.0	50.0	-33.3	-60.0	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	42.9	33.3	33.3
設備	42.9	25.0	33.3	33.3	100.0	50.0	-33.3	33.3	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	-33.3	-100.0	-100.0
資金繰り	-86.0	-96.1	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-77.8	-100.0	-100.0	-100.0	-71.4	-100.0	-33.3	-50.0	-100.0	-100.0

会員の声

【卸・小売業】

- ◆直近では、新型コロナウイルスの影響は長引くと思います。(2年～5年)。長期的には、人口減少への対応（日本の総人口9000万人を想定した事業の見直し）。
- ◆例年恒例の展示会が4月まですべて中止になった。今後の見通しもたっていない（7月中旬の展示会）。夏のバーゲンの取り組みを検討中です。
- ◆古川跨線橋の問題。

【製造業】

- ◆製造（加工）部門は売上・採算の変動は少ないが、建設（工事）部門の受注変動が大きく、1～3月の売上・採算の減少が現れた。
- ◆コロナによる設備投資の工事時に工事が出来なかった。
- ◆コロナの影響により物流が止まり出荷が止まった（倉庫がいっぱい）。

【サービス業】

- ◆消費税増税・軽減税率の処理が複雑で大変。（確定申告や帳簿等）また増税とか増税とか変わると大変。
- ◆10%増税による仕入価格の動向、追い打ちをかけるようにコロナウイルス。
- ◆新型コロナウイルス感染症予防のため、イベント等の中止続出。大型イベント・店舗のSALEの開催も今後未定のため売上減少は続く。

【飲食・宿泊業】

- ◆テレワークが活用しにくい業種なので、家賃・人件費がかなりの負担。屋の来客は少し戻ってきてはいるが、夜は外食をひかえてる感じはする。
- ◆コロナウイルスの影響で夜のお客さんが皆無状態。イベント等もできないので、売上が減少している。今後も売上の見込みがわからない。
- ◆コロナウイルスにより他県との往来が難しくなっているため、宿泊客が大幅に減少している。

【建設業】

- ◆地域経済を活性化させるために地場の業者を優先して使ってほしいと考えます。公共事業でも他市、他県からの業者が入る事が多くなったと感じます（下請業者）。下請業者で工事に入る我々中小企業は地元の公共事業もとれない状況です。
- ◆コロナによる経済の流れが悪くなり、あまり影響のない建設業にも影響がきています。特に特殊な業種は県外業者が多く、遅延による経費の負担が問題です。
- ◆感染症を考慮して、営業活動・広告宣伝が出来ない。決まっている工事が出来ない。

【運輸業】

- ◆人手不足の高募集要件の労働時間の自由度を設けて人員確保をしている。
- ◆燃料の仕入値の変化が気になります。大手取引先が稼働している中で景況の変化はありません。運送業界における運転手不足。
- ◆2020年1月～3月はコロナの影響なく、前年比で人材減少により減収減益。4月以降は徐々にコロナの影響が出始めている。原油価格も4月までは下落傾向にあったが、現在では上昇してきており、今後は更なる上昇が見込まれる。
- ◆コロナの影響で仕事が激減しており、今後3ヶ月の見通しが全く立たず。

【保険業】

- ◆他の業種（お客）の状況によるので今後設備投資の縮小などにより、売上減少の可能性が高い。
- ◆1月は前年同等だったが、2月より新型コロナウイルスの影響により、来客が減り始め、3月には、ほぼ来客がなくなった。
- ◆コロナの影響で資金繰りが悪化したお客さん（保険契約者）の保険契約の解約（積立の生命保険）や保険料を抑える動きがあり、それに伴い売上（販売手数料）が減少する見込がある。

【建設業】

マイナスではあるが、採算D1は、当業界が一番マイナス値は低い（いちばん良い）。

売上高D1、採算D1、資金繰りD1は現状には良好と回答されている事業者が多いため、今後の見通しでは、従業員D1と設備D1を除く数値でマイナス100%となっている。

やはり、新型コロナウイルスの影響で、思うように営業活動ができない、取引先の生産調整で受注が減少等の声がある。

【運輸業】

売上高D1、採算D1は現状・今後共に小幅に悪化している。今後の見通しは悪化が進行しているが、「良好」と回答している事業者もある。売上高D1、採算D1が悪化の程度は一番低い業界になる。人員不足の課題を持つ事業者が多く、労働時間を柔軟に調整して人員確保の工夫をされている事業者もある。当業界は、大手製造業の運送や、観光、引越、宅配など、多様な業種の顧客との取引をそれぞれ行うため、調査結果も大きく

【保険業】

はらっている。

売上高D1、採算D1の現状はマイナスだが、「不変」と回答する事業者が多かったためであり、「悪い」と回答された事業者は当業界が最小の数だった。しかし、今後の見通しは新型コロナウイルスの影響で、減少するとの声がある。当業界はテレワークを実施することが可能で、その体制を整備できたとして、新型コロナウイルスの影響を乗り切ったと言われる事業者もある。